

# 想・創 まほらディア

# 世界に誇れる持続可能な置賜を創造する人材の育成

## 目的

SDGsを行動基盤としてグローバルな視点でイノベーションできる国際人を育成する

## 目標

地域におけるSDGs拠点校として、SDGs理解促進と浸透に努め、同時にグローバルな視点でこの地域におけるSDGs達成のための活動を行うことで、置賜地区を持続可能で誰にとっても理想的な地域にイノベーションする

### グローバル連携

- Hawaii Global Education Fundation
- NPO法人LOOB
- 埴里高級工業職業学校
- 私立明達高級中学
- Calros Albert High School



### 運営指導委員会

- 森田明彦：尚絅学院大学名誉教授
- 甲斐信好：拓殖大学国際学部長
- スルトノフ ミルドサイド：東北公益文科大学教授
- 金光秀子 米沢栄養大学教授
- 遠藤直樹 米沢市役所企画調整部長
- 本田勝 JICA東北市民参加協力課長

### 令和3年度の目標

- 協働・連携先の進展と強化を図り、探究学習の幅を広げる。
- 探究学習を軸とした教科横断型授業の研究と実践
- コロナ禍におけるグローバルなプログラムの創出
- グローカル・ラーニングα、βの質的向上

### 取組状況

- コンソーシアムを通じて他の自治体のキーパーソンや企業、団体などを紹介してもらい、生徒の探究学習へとつなげた。
- グローカルαにおいて、Oposum研究チームとの連携で脱炭素社会の構築と地域課題の解決のコ・ベネフィットを目指す探究学習を展開した。
- 探究を軸とした教科横断型授業を行いやすいように、グローバル・カレンダーを作成し、教員間で共有するとともに、カリキュラム開発専門家を講師として教科横断型学習について教員研修を行い、研究開発推進委員で先行実践した。
- 台湾の7大学と連携協定を結び、オンライン討論会を実施したり、JICEによるKakehashi Projectに参加したりして、海外の学生と交流した。

### 成果と課題

- 体系的でより効果的なフィールドワークやワークショップなどをコンソーシアムと協働で実施することができた。
- 協働体制が広がり、生徒たちがより幅広い自治体や企業・団体とつながり、積極的に外へ出て、自走できるようになってきたが、連携先との目的、イメージの共有が課題
- 大学と定常的に連携する質の高いカリキュラムを構築することができた。また、その成果物として、汎用性の高い教材を作成することができ、地域の中学校へも提供できるようになった。
- グローカル・ラーニングの質的向上により、生徒たちがより意欲的、自発的に行動する自立した学習者となり、探究学習に資する外部のイベントや大会に積極的に参加するようになった。
- 研究成果としての教科横断型授業の実践

ポスト地域協働推進事業へのソフトランディング